



↑本やビデオは、貸出簿に記入すれば簡単に借りられます。ぜひ一度ご覧ください。

ものから懐かしいものまで幅広いジャンルがそろっており、その数なんと1千点。学校や企業で人権啓発の教材としてはもちろん、個人への貸し出しも無料

人権センターでは、多くの人に足を運んでもらうため、定期的に企画展などを行っています。移転後の企画展「三発目の原爆」原画展は、12月から好評開催中。「人権」を特別難しく考えるのではなく、無差別に命を奪われるような惨事がこの田川の地で実際にあったと知ること、自然と大切な何かに気付くはず。福智町に移転し、より身近になった田川地区人権センター。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

### 知られざる田川の歴史「三発目の“原爆”」原画展 開催中!



↑山が2つに割れた「二又トンネル爆発」で、家族を失った佐々木盛弘さんの文と絵に、平和の尊さを考えさせられます。

昭和20年11月、二又トンネル(添田町)に格納されていた532トンの火薬が大爆発。約300人が死傷したこの惨事を、当時11歳で現場付近に住んでいた佐々木盛弘さんが文と絵でつづった「三発目の“原爆”」の原画展です。

**期間** 1月31日(木)まで **観覧無料**  
**場所** 同和対策研修センター 1階ロビー

#### 田川地区人権センター



家庭でも欠かせない人権教育のために、現状を知ることから始めてみませんか。ぜひお子さんと一緒にセンターへお越しください。

田川地区人権センター **堀内 忠** 事務局長

同和対策研修センター1階 (福智町赤池970番地4)

☎ 28-5230

🕒 8:30~17:00 (月~金)

1階の奥が田川地区人権センターです!



### 人権啓発・相談ほか 本やビデオの 無料貸し出しも可

昨年10月、労働福祉文化会館(田川市)内から福智町同和対策研修センター(赤池)内に移転した「田川地区人権センター」。田川市郡8市町村のすべてのみなさんを対象として、人権問題の解決に取り組んでいます。

具体的には、人権講座の開催や人権パネル展の実施、啓発冊子の作成などのほか、本やビデオの貸し出しも無料で行っていきます。特にビデオは、子ども向け

# 人権センター

人間が人間らしく生きる権利「人権」。文字どおり、人が誰も生まれながらにして持っている「あたりまえ」で、かけがえのない権利です。この人権の大切さを訴え、人権に関わる問題の解決をめざす「田川地区人権センター」が、福智町に移転しました。

です。ご家庭でもお楽しみいただけます。また、人権に関わる問題などを抱えているかたは、一人で悩まずにご相談ください。人権センターは、田川のみならず笑顔で暮らせる地域づくりを目指しています。

### みんなのための 人権センター お気軽にご利用を



今回の主張を受け、福智町教育委員会の徳久公博指導主事は「主張の根拠がはっきりしており、それぞれが胸を張って堂々と発表できていました。この経験はみなさんの貴重な財産となるはずだ」と講評を述べました。

団結こそ力なり

金田中学校2年 天江 由莉奈



### 団

「結こそ力なり」。これは金田中学校バスケットボール部の横断幕の言葉です。私は小学生の頃からバスケットをしていましたが、中1で入部してすぐは、女子一人で不安で仕方なかったです。でも、先輩や同級生のおかげで、気付けば楽しい部活動生活を送ることができ「キャプテンになって3年生の夏で筑豊大会に行く」という目標もできました。だけど、中2の夏休み前は「3年生が引退したら辞めよう」。この考えが私をうめつくし、今まで楽しかったことも楽しくありませんでした。最初はこの気持ちも誰にも言えずに一人で悩んでいましたが、仲のよい先輩に相談すると「ゆりちゃんもバスケット部に入れたんやき最後まで教えてよ。辞めんでね」。この言葉で、自分の考えが間違っているなど、いろんなことが頭に浮かびました。そして私は、この先絶対何があっても辞めたいはいけません。そう感じました。私は中1の時の目標を一つ叶えました。それは、キャプテンになれたことです。私は中学に入ってから、たくさん学び、思い、知ることができました。つらくても終わったら気持ちの良い達成感が待っていること、負けず嫌いな先生や親みんなどのおかげで部活ができていたというありがたみ、たくさん学びました。でもバスケットを通じて一番学んだのは、チームメイトに支えられて、助け合っていること。「仲間の大切さ」です。

平和な世界の今

方城中学校2年 木山 夕鶴



### 終

戦から66年。テレビで戦争の再現ドラマやドキュメンタリーを見るたび、私は、本当にこんなひどい日本があったのだろうかと考えてしまいます。私は、夏の平和学習で沖縄戦を学習しました。沖縄の人の多くが防空壕に避難していましたが、すぐにアメリカ兵に見つかりました。その時「助けるから出てきなさい」と言うアメリカ兵の言葉を無視し、多くの人が集団自決をしました。しかし、とある2人の男性がいたことで、全員が助かった防空壕がありました。2人はアメリカで教育を受けていたため、その言葉が嘘ではないと知っていたのです。当時、アメリカ兵に投降しようという2人の言葉は衝撃的だったに違いありません。しかし、結果的にこの2人が沖縄の人たちを説得してくれたおかげで、多くの命が助かりました。その後、日本はいろいろなことを変えていきました。世界の情報や教育を取り入れ、人々が協力して戦後の日本を築き上げ、今の便利な生活ができています。現在の日本はいろいろなことを自由に行うことや学ぶことが出来ます。何が間違っている、何が正しいのかを、きちんと知るためにも、私たちはしっかりと勉強をする必要があると思います。世界には、自由などの人権が制限されている国がまだまだあります。私は一日でも早く、自由と人権を手に入れ、戦争を止めてほしいと願っています。

川をきれいに

赤池中学校2年 田口 大成



### ぼ

くは「みんなで川をきれいにしよう」ということを主張します。なぜかというと、1年生の時にARTで「川」について学んだからです。ARTとは「赤池リバータイム」のこと、ぼくはこの学習の中で、遠賀川の水質が全国ワースト2位と聞いて驚きました。川が汚いと魚も住めなくなるし、安心して飲むこともできません。ぼくは「川をもっときれいにしたい」と強く思うようになりました。川をきれいにするために「水エコ」をしてほしいと思います。「水エコ」とは、一人ひとりが川を汚さない工夫をすることです。たとえば「食器を洗う前に油を古紙で拭き取る」、「小さな生ごみでも流さないようにする」、「あらかじめ髪をお湯で洗い、シャンプーを少量ですませる」ということなどです。ぼくたちはサケの稚魚の放流をする前に「ひこさんがわ夢の会」のかたと一緒に、彦山川の河川敷清掃もしました。お菓子やペットボトルや空き缶といったポイ捨てのゴミだけでなく、おむつ一袋やタイヤなど、大きなゴミもたくさんありました。「川にゴミを捨てない」という当たり前のことも、心がけてほしいと思いました。一人の人がどんなに努力しても、他の人が何もしなかったら「川」をきれいにすることはできません。みんなで協力してこそ「川」はきれいになるのです。だからぼくは「みんなで川をきれいにしよう」と、改めて主張します。